



## 日本エアコミューター機内BGMに、鹿児島県出身の宮園 唯さんの歌う楽曲『未来』を使用します。

2014年11月7日

JALグループの日本エアコミューター（JAC、本社：鹿児島県霧島市）では、11月より順次、機内のBGMを変更します。

今回は、鹿屋市出身の宮園 唯（みやその・ゆい）さんの歌う楽曲『未来』を使用します。

この『未来』という曲は、鹿児島市出身の作家 鬼塚 忠（おにつか・ただし）氏が作詞、鹿屋市文化会館館長で鹿屋市出身の演出家 松永太郎（まつなが・たろう）氏が作曲したもので、お客さまが当社の飛行機に乗り降りされる際に、BGMとして機内に流れます。

宮園さんは現在、東京都にある大学に通いながらライブ活動を行っています。宮園さんは高校時代の2013年、地元の鹿屋市で行われた高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」(\*1)でヒロインを演じ、その歌唱力で多くの観客を魅了しました。

この曲は、以前より鹿児島県の離島に魅力を感じていた鬼塚氏が、鹿児島県の離島と、その島々を結ぶ翼である当社の飛行機をイメージして制作したものです。

(\*1) 高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」

1500年前の大隅と奄美の交流をテーマとして松永氏が脚本、演出、音楽を手がけるミュージカルで、2007年2月から鹿児島県大隅半島の高校生による公演が続けられています。

このミュージカルは、学校教育に加え社会でのその才能の芽を育み、郷土愛や協調性を学び、ひいてはもてる才能を発揮して充実の人生を送ってもらうために、持続可能な文化事業として、鹿児島県教育委員会の後援のもと、演出の松永氏が館長を務める鹿屋文化会館が取り組んでいるものです。

今後とも日本エアコミューター(\*2)は、地域の文化や音楽・特産品などを機内で紹介し地域に貢献していくとともに、お客さまに素敵な空の旅をお過ごしいただけるよう努めてまいります。

(\*2)日本エアコミューターは、鹿児島県奄美群島内の航空路線維持を目的とし、1983（昭和58）年に奄美群島12市町村（当時：14市町村）と日本航空（当時：東亜国内航空）の共同出資により設立されました。

以上



【参考資料】



歌；宮園 唯（みやその・ゆい）さん



作詞；作家 鬼塚 忠（おにつか・ただし）氏



作曲；鹿屋市文化会館館長 演出家 松永太郎（まつなが・たろう）氏